

市民活動促進委員会 第3回会議要録

2005.8.6(土)

コミュニティセンターやす会議室1

開会(9時30分)

あいさつ

(事務局) 前回の会議で、調査研究班の体制を確認いただき、各班の班長を決定いただきました。本日の会議からは、班別に会議室のレイアウトを設定しましたので、各班での議論を中心をお願いすることとなります。

概要

1. 班長会議の結果について

(事務局) 前回の会議の後、各班長さんにお集まりいただき、本日の議題などについて協議いただきました。第1回会議から未決定であった委員長の互選についても、班長の中から互選するというので、話し合いの結果、志賀さんをお願いすることになりました。また、本日の議題についても、後ほど説明しますが団体ヒアリングの実施に向けて、課題の検討について、という二点について協議いただくこととなりました。以上、班長会議の結果の報告とします。

今回、会長に互選されました志賀委員さんからごあいさつをお願いします。

(志賀) 市内には様々な団体があり、多くの方が市民活動に参加されている。こうした市民活動をより活発にしていくため、この委員会で活発な議論、話し合いをしていきたいと思う。特に、我々のように一線の仕事から退いた方々、団塊の世代の方が多くおられ、こうした方々が市民活動に参加されるように様々な機会を通じてお知らせをしていきたい。

2. 団体ヒアリングの実施に向けて

(事務局) 当初の計画で決定いただきました各団体へのヒアリングについて、具体的にどのように実施していくか、その手法等について確認をしていただきたいと思います。

班長会議では、それぞれの委員で自分が聞いてみたい団体などをピックアップして、1人4団体程度を目安とし、班で16団体、全体で64団体となります。全体で調整していく必要もありますので、各班で確認いただいたうえで、次回の会議で決定した後に実施してはどうでしょうか。

(委員) 個人が行きたい団体を選定することも一つだが、アンケート結果をみたうえで委員会の決定として、ヒアリングの目的を明確にしたうえで、実施していくべきではないか。手段や日程調整、実施時期などもそうだが、

- (会長)特に班で実施していくということで、今回は実際には、1人か2人でヒアリングをした。日程調整を難しいところもあった。アンケート調査結果をみながら、ヒアリングしていくので、もっとこの点を聞いてみたい、と思われるところなどを中心にヒアリングいただくということでどうか。
- (委員)その他に、出向いていく委員の保険対応が必要ではないか。
- (事務局)保険については、事務局で確認し、対応について次回に報告させていただきます。
- (委員)ヒアリングの中身がわかりにくいのではないかと、また、サークル活動、趣味の活動もそのヒアリング対象としていくと、全体の計画づくりに影響があると思う。対象団体を選択する際には考慮していくべきではないか。
- (事務局)前回会議の議論でも市民活動団体の定義が議論されたと思いますが、それは誰が決めるというのではなく、自らの活動が広く社会に貢献する活動であるということであれば、今回のアンケート調査で回答される団体、ということであったと思います。
- (委員)サークルであるから対象外とすることは誰も決められない、委員会の意向として対象を絞るということは難しいと思う。
- (委員)ヒアリングの対象団体などはアンケート調査結果をみながらではないかと、焦点があわないのではないかと。
- (委員)何を目標として実施するのか、もっと明確にしていく必要がある。前回のヒアリング方法を検証していくべき。
- (事務局)一定のヒアリングマニュアルを作成していく予定です。目的については、認識の共有化を図る必要があると思いますので、委員のみなさんで意見願います。
- (委員)調査目的がまちづくりのためであり、正確な調査をするためには対象団体の組織の規模にも違いがあり、対象団体をまとめておく必要があるのではないかと。
- (委員)調査結果は、一つの結論を出すものではないと思う。100団体それぞれ違った課題があっても、そのことに対して結論づけることはできないし、すべきではないと思う。そうした結果を、それぞれの活動団体が参考にしていけるものであると思う。どういう市民活動を促進しようとするのか、であるとか、どんな市民活動なのか、をこの委員会でいうべきではないと思う。
- (委員)市民が他にどういうニーズをもっているのか、団塊の世代の市民活動への参加を促すにはどのような手法があるのか、そうした課題の解決のきっかけになればよいのではないかと。
- (委員)調査結果をそれぞれの団体が見つけ、考えていくことが大切ではないか。調査をきっかけに課題が明らかになり自分の活動団体をどう活性化していくか、明確になると思う。その課題をどう生かしていくか、自分たちで解決していく問題なのか、行政の支援が必要なのか、また協働していく問題なのか、そのことをこれから考えていく

べきである。

(委員) 前回の調査結果の成果として、行政との協働事例もたくさん出てきた。そのことは、行政サイドでは市民の活動を把握できなかったからである。データはその協働を推進していく行政としても、どの団体と協働できるのか、選択することにもなるし、団体との多様なかわりがでてくると思う。

(事務局) 各班で、委員のみなさんが思われる団体を一度話し合っただけであればどうでしょうか。一旦休憩し、10時42分から班別の議論で再開させていただきます。

~ 休憩 ~

(事務局) それぞれお考えの団体について、出し合っていたら、班で確認をした後に、最終班長さんから事務局へ提出ください。全体の中で重複や調整が必要なところもあると思いますし、分野でも偏りがないように確認していきます。なお、アンケート調査対象団体一覧を配布していますが、それ以外にも事務局では知りえない活動団体がありますので、ヒアリングしたい団体があればお願いします。

また、次の検討として、各班で、委員のみなさんがご自分の活動の中で問題と思われる点、課題について話し合いをいただきたいと思います。特に課題の検討は、アンケート調査の質問の中で、課題の項目がありますので、参考にして下さい。

本日、配布している資料「市民活動の促進に向けた課題の整理と施策案づくり」は、課題の整理方法とそれをどう具体の施策につなげていくか、という手法をとりまとめた資料です。これからの検討方法の一つとして、この中でまず、ご自分の活動の課題について班で話し合いをお願いします。

3. 課題の検討について ~ 班別発表 ~

(A班)

- ・グループの志をつないでいく難しさ、考え方がかわってくる。当初の理念を継続していく活動が難しいところがある。
- ・資金の問題
- ・情報交流として、全体の輪をつなげる絵が描けない。
- ・まちづくりの課題の解決にどうかかわっていくのか。基本条例をいかに描くか。自分の住むまちをどのように描くか、守るか、環境、人権……。それをまもっていくことがまちづくり、ひとづくり、グループの存在意義になっていくのではないかと。

(B班)

- ・ひまわり会の活動を例にその課題について話し合った。
- ・活動資金の問題で、市の古紙回収奨励金を財源としていた。キロ5円から3円に減った

ため、経費の削減になっている。

- ・会員が固定している。ボランティアは現在65人だが、全員女性である。高齢者のサロンを実施しているが、男性も対象としているものの、参加が少ない。退職された方などに社会活動に参加してもらえようような取り組みが必要
- ・施設の維持管理の問題

(C班)

- ・自分たちの活動について話しあった。要約筆記をやっているが、会員が固定化している。10人で活動しているが、20人くらいで活動したい。会員数を増やしたい。今後の課題である。
- ・所属団体の「琵琶湖水と地域の環境を守る会」について、活動内容をきいた。びわこの汚れ、原因はなにか、まず、山などの緑、中主1%しかない。山、川の関係がびわこを汚す。テレビで話題のNHKの「ご近所の底力」という番組がある。市民の力が結集されて解決されている。ヨーロッパで、地球温暖化進んでいるが、ドイツでは、地域住民が住んでいるところにつめたい風を送るため、地域の前に緑の森をつくって、大規模なプロジェクトが、地域の住民の力が、国を動かしたという例、地域の住民の力でまちを考えていくことが市民活動である。

(D班)

- ・団体の活動について、話し合った。
- ・リーダー層が出てこない。受け継いでいくことが困難な状況にある。
- ・財源の確保に苦慮している。
- ・活動の中で、意識が薄い人など、格差がある。

(事務局) 以上の意見をみると、活動経費の問題や後継者や会員の固定化が多くありました。次回の会議では、アンケートの速報結果を見ていただきながら、課題についてより深い議論をしていただくこととなります。

(会長) 特に意見なければ、閉会とします。ありがとうございました。

(委員) コミセン夏祭りに団体として参加していますので、ご都合がつけばご来場ください。

閉会(午後0時5分)